

# なぜなに やま・もり 山や森についてもっと知ろう!

## 木を伐ることが山や森林を守るの?

昭和30~40年代、山形県では木材を生産するため、スギの木が多く植えられました。その後、農村の過疎化や高齢化、木材価格の低下などにより、手入れがされない森林が増えてきました。

木が成長し、そのまま伐らないで放置してしまうと、森林は木で混みあい、太陽の光が入らず、元気がなくなってしまいます。

そこで、混みすぎた森林の木の一部を伐ること=「間伐」が必要になります!



元気な森林は、降った雨をたくわえゆっくりと川に流し、山地災害を防いだり、空気中の二酸化炭素をとりこみ酸素を生み出すなど、私たちの生活に豊かな恵みを与えてくれます。

**私たちの身近にある森林に、あらためて目を向けてみませんか。**

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して手入れの遅れた森林を整備しています。

## 企業だって 森づくり♪

### シエルター絆の森 編



株式会社シエルター(山形市)では、平成22年4月から山辺町大字北作で「シエルター絆の森」活動を始めました。  
県内の注文住宅や全国の大規模建築に地域材を積極的に使用している同社。木を大量に利用する社業。だからこそ「植える、育てる、伐る、使う、また植える」という緑の循環を学びたいという想いが芽生え、スタートした取り組みです。

#### 5年目に入りました —皆さんの活動も

苗木たちは、雪や豪雨に耐えて順調に育っています。次の年からは社員だけでなくお客様も招いた活動に広げ、愛情を込めながら下刈りをしています。  
今年の夏は気温35度(真夏日)の中で作業でした。たつぷり汗を流した後、恒例となった弁天さんの手打ち蕎麦に舌鼓を打ちました。作谷沢のそば粉で打った香り豊かな蕎麦、山菜の天ぷら、天然わさび、これがたまらない美味しさなんです。でも、この日、何より美味しかったのは「冷たい湧水」でした(笑)。

#### 担当者の声



(株)シエルター 建築営業部 佐藤 公紀 さん

#### —地元の皆さん(作谷沢振興会)との活動です—

作谷沢振興会の皆さんは、さすが山のプロらしく下刈りなんかは草刈機を使って素早いんです。経験豊かな皆さんからは作業だけでなく森づくりのあらゆる面でご指導いただき、大変ありがたいです。地元の方々とも、きのこ栽培や芋煮会を通して交流させていただいています。

#### —今後の抱負を聞かせてください—

年々増えてきた参加者に「また参加したい」と思ってもらえるよう続けていきたいです。また、お客様や子供たちの参加をもっと増やしたり、ほかの絆の森参加企業の皆さんと一緒に活動するなど森づくりの輪を広げていきたいです。  
当社は、地域の木材をより多く使うための技術を開発してきました。木造建築の接合金物工法・SPFS® 構法や木造耐火部材・COOLWOOD®を使うことで大規模な木造耐火建築物や高層の木造ビルが建てられるようになりました。南陽市で建築中の新文化会館にもこの技術が使われています。また、市街地に木造の建物を増やす「都市(まち)に

#### —担当者のご苦労は?—

普段の業務とは違った野外での作業ですので、参加者の安全や体調の管理に気を付けています。特に夏の活動は熱中症や虫刺されも心配ですね。けがのないよう事前の準備を徹底し、作業中は声を掛け合うようにしています。  
絆の森に参加して、木の恩恵で当社が成り立っていることを改めて感じています。この取組みは、木を育てるだけでなく私達社員の心も豊かにしてくれている気がします。

#### —絆の森の活動が広がったとお聞きしました

絆の森で学んだ道具の使い方や野外活動の運営方法を生かして、プレカット工場(寒河江市)のそばにある社有林の整備を23年度から始めました。「シエルター平野山の森」と名付けた森は約3haと広大ですが、入の手が入り、徐々に温もりが宿っていく様子を見ると、やりがいを感じます。  
将来は、花と緑があふれる憩いの場として、地域の方々に楽しんでいただけるよう整備を続けていきます。